

豚繁殖・呼吸障害症候群の制御のための飼養衛生管理技術の高度化

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所 恒光 裕

2 研究期間

2006～2008 年度 (3 年間)

3 研究目的

豚繁殖・呼吸障害症候群 (PRRS) は養豚における生産性阻害の大きな要因となっている。このため、PRRS 制御のための飼養衛生管理技術の高度化を図る。

4 研究内容及び実施体制

- ① PRRS の疫学実態と伝播・存続様式の解明 ((独) 動物衛生研究所、日本養豚開業獣医師協会)

PRRS のアクティブサーベイランスを実施し、PRRS の野外実態と本ウイルスの伝播・存続様式を明らかにする。

- ② PRRS の制御を目的とした飼養衛生管理技術の開発 (日本養豚開業獣医師協会、(独) 動物衛生研究所、)

モデル農場を設定し、飼養衛生管理技術による PRRS ウイルスの制御ならびに清浄化を試み、PRRS 制御のためのガイドラインを作成する。

- ③ PRRS による経済損失と PRRS 制御の費用対効果の検証 ((独) 動物衛生研究所)

PRRSによる経済的な被害を損失調査法等により評価するとともに、PRRS制御技術の費用対効果を検証する。

5 目標とする成果

PRRS 制御のための飼養衛生管理技術が高度化される。これにより、子豚損耗率の低減、国内豚肉の低コスト且つ安定的な生産が期待される。

豚繁殖・呼吸障害症候群の制御のための飼養衛生管理技術の高度化

豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS)

病因: PRRSウイルス

大多数の農場に常在化

子豚に肺炎

- ・死亡率の上昇
- ・増体率の減少
- ・衛生費の増大

母豚に繁殖障害



深刻な経済被害

子豚や母豚の免疫状態の安定化や感染環の遮断といった衛生管理技術を基礎とした総合的な防除技術を構築する必要

本ウイルスの伝播・存続様式に関して未解明な点が多数残されている

研究内容

PRRSの疫学実態と伝搬・存続様式の解明

1. アクティブ・サーベイランスの実施
2. 損耗実態とウイルス動態の解明

PRRSの制御のための衛生管理技術の開発

1. PRRS制御および清浄化の試み
2. PRRS制御のガイドライン作成

PRRSの経済的評価と費用対効果の検証

1. 損耗被害額の推計
2. 衛生管理技術の費用対効果

達成目標

PRRSに対する飼養衛生管理技術の高度化

期待される波及効果

豚肉の低コスト・安定的生産

1. アクティブ・サーベイランスの実施
2. 損耗被害とウイルス動態
3. 導入豚の馴致評価
4. 株の多様性と交差防御の関連



1. 損耗被害額の推計
2. 衛生管理費の推計
3. 飼養衛生管理技術改変の費用対効果

PRRSの疫学実態と
伝搬・存続様式の解明

PRRSの経済的評価と
費用対効果

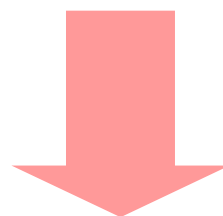
動物衛生研究所

生産現場
—養豚農家—

日本養豚
開業獣医師協会

PRRSの制御のための
衛生管理技術の開発

1. AI/AO等ピッグフローによるウイルス制御の試み
2. PRRS清浄化の試み
3. PRRS制御のためのガイドライン作成



PRRSに対する衛生管理技術の高度化



損耗リスク低減・生産性向上

